

災害

からわが身を守る

土砂災害・洪水に備えよう

電気以外にもいざというときに使える電気の備えがあると安心です。

②気象・避難情報などの収集

台風や豪雨が予想される時はテレビ（データ放送）やラ

ジオなどの気象情報に注意しましょう。また、気象庁が公開しているキキクル（土砂災害・浸水害・洪水の危険度分布）は、スマートフォンやパソコンを使って災害発生時の危険度の高まりを地図上で確認できます。

キキクルは、左下の二次元

コードをスマートフォンで読み取ると利用できます。この機会にぜひ、ご利用ください。また、市では、災害の危険が迫ったときに避難指示などの避難情報を発令して避難を呼び掛けます。主な伝達手段は次のとおりです。

避難情報の伝達手段

- ・緊急速報メール
- ・桐生ふれあいメール
- ・防災アプリ（HAZARDON）
- ・防災ラジオ
- ・防災行政無線
- ・広報車
- ・アラート（テレビのデータ放送など）
- ・市ホームページ
- ・自治組織
- ・自主防災組織

①家庭内備蓄品の準備

非常持ち出し品は、避難場所までの距離などを考え、持って避難できるだけの必要量にしましょう。市も食料な

災害に備えて、適切な知識を持ち、自分の命は自分で守ることを心掛けましょう。

問い合わせ先 防災・危機管理課 防災・危機管理担当（内線 415）

どを備蓄していますが、その数には限りがあり、避難所にすぐに配布できない場合があります。また、大規模な災害が発生した場合は、食料品や日用品、車の燃料などが品薄状態や売り切れになる恐れがあります。こうした事態に備えるため、日頃から飲食料品は常に3日分程度（可能であれば1週間分程度）を目安として保管するようにしましょう。

同様に、車の燃料もいつ災害が発生してもすぐには困らない程度の残量のうちに、給油することを心がけましょう。携帯用トイレや懐中電灯などの日用品も忘れずに備えておきましょう。

倒木による電線の切断などで停電が発生することがあります。太陽光発電や蓄電池、小型発電機など、電力会社の

▼キキクル（スマホ表示画面）



▼キキクル二次元コード



洪水



浸水



土砂



避難情報発令前でも
自主的に避難できる避難場所

- ・昭和公民館
- ・梅田南小学校体育館
- ・南公民館
- ・相生公民館
- ・東公民館
- ・川内長寿センター
- ・西公民館
- ・菱公民館
- ・北公民館
- ・桜木西公民館
- ・境野公民館
- ・新里支所
- ・桜木公民館
- ・黒保根支所
- ・広沢公民館

災害時安否確認バンダナを
ご活用ください



災害発生時に、住民の安否確認を迅速かつ円滑に行い、自主防災組織などの地域支援者が被災するリスクを軽減することを目的として、「災害時安否確認バンダナ」を配布しています。自主防災組織や自治会を通じての交付申請・配布となりますので、希望する自主防災会などは防災・危機管理課までお問い合わせください。

自分が住んでいる地域の危険箇所や避難所、避難経路を事前に歩いて安全に避難が行えるか確認しましょう。土砂災害や洪水で被害に遭わないためには「早めの避難」が特に重要です。

自宅をハザードマップで確認し、土砂災害警戒区域や浸水想定区域に住んでいる人は、その区域の外にある避難所や親戚・友人宅、ホテルなど安全な場所へ移動する立ち退き避難（水平避難）が原則です。また、土砂災害警戒区域や浸水想定区域ではないところに住んでいる人は、避難所より自宅にとどまる（在宅避難）方が安全なこともあります。

市では避難情報が発令される前であっても、皆さんが危険を感じた場合に、自主的に避難できる体制を整えています。

市では避難情報が発令される前であっても、皆さんが危険を感じた場合に、自主的に避難できる体制を整えています。

③地域の危険箇所や避難所、避難経路の確認

災害が切迫している、もしくは、すでに災害が発生している場合や夜間は移動に危険が伴うことがあります。そのときは、無理に避難場所まで移動しようとせず、自宅を含めて、がけや沢から少しでも離れた近隣の建物の上階に待避（垂直避難・屋内安全確保）してください。また、冠水道路をやむを得ず移動する場合には、棒や杖などで足の安全を確認しましょう。

降雨後であっても数日間川や山に近寄らないなど、適切な行動をとることが、災害からわが身を守ることにつながります。

▼土砂災害の予兆現象

現象	特徴	前ぶれ（予兆現象）
土石流	山腹や川底の石、土砂が時速 20 ～ 40 キロメートルという速度で一気の下流へと押し流され、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。	・山鳴りがする ・急に川の水が濁り、流木が混じり始める ・腐った土の匂いがする ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる ・立ち木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる
地すべり	移動する土塊の量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。	・地面がひび割れたり、陥没したりする ・がけや斜面から水が噴き出す ・井戸や沢の水が濁る ・地鳴りや山鳴りがする ・樹木が傾く ・亀裂や段差が発生する
がけ崩れ	崩れ始めてから、崩れ落ちるまでの時間がごく短く、人家の近くで起こると逃げ遅れる人も多く、人命を奪うことの多い災害です。	・がけにひび割れができる ・小石がパラパラと落ちてくる ・がけから水が湧き出る ・湧水が濁ったり、止まったりする ・地鳴りがする

こんにちは
市長です

あらゆる災害を想定し、
日頃から準備しましょう



近年、全国各地で、線状降水帯の発生などによる突発的、記録的な大雨が引き起こす災害が目立っています。

また、土砂崩れや火災、建物倒壊などの被害をもたらす大地震はいつどこで発生してもおかしくないといわれています。

こうした中、桐生市では、7月に、市内で震度6強の大規模地震の発生を想定したブラインド型図上訓練を実施し、課題の発見や関係各所との連携強化を図りました。また、9月1日には消防隊秋季点検並びに水防訓練を行うなど、市としても引き続き万全の体制を整えてまいりたいと考えております。

皆さまも、いざというときのために、日頃から避難経路の確認や家庭での備蓄など、できる限りの備えをお願いします。

桐生市長 荒木 恵司